

# 浜名湖の漁業再建と輸出産業創出に向けた ノコギリガザミの種苗生産及び養殖技術の開発

(予算区分 [県費] 研究期間 2024~2026 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 深層水科 清水一輝・稲葉晃誠  
開発加工科 朝倉啓輔

## 【研究の背景とねらい】

- ・浜名湖でのノコギリガザミの漁獲量は高位安定で、販売単価は上昇傾向にあります。
- ・漁業者等から漁獲量の更なる増加を期待し、種苗放流数の増加要望がありますが、種苗生産過程で、大量斃死が常態的に発生し、量産化の妨げとなっています。
- ・また、世界的にもノコギリガザミの需要は高いものの、主産地での天然資源に依存した養殖生産量は頭打ちで、民間企業から人工種苗による養殖技術開発の要望があります。
- ・そこで、種苗量産技術を開発し、安定的な放流・養殖用の種苗供給体制を確立するとともに、収益性のある養殖技術の開発を行います。

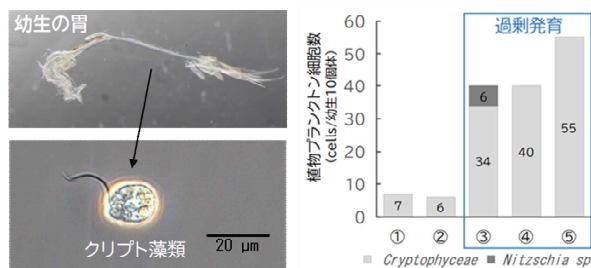
## 【これまでに得られた成果】

(2024 年度までの成果)

- ・飼育水に電解殺菌海水を用いることで、壊死症を抑制できる可能性が示唆されました。
- ・ノコギリガザミに適した配合飼料を開発するとともに、脱皮の間隔や兆候を把握しました。

(2025 年度の成果)

- ・壊死症への防疫管理手法として、収容前の幼生の洗浄と電解殺菌海水を使用した飼育が有効であることが確認できました。
- ・過剰発育の原因は餌料の栄養過多ではなく、飼育水に含まれるクリプト藻類 (図 1) である可能性が示唆され、これまでの給餌方法では栄養不足であったと考えられました。
- ・脱皮の間隔や兆候から脱皮のタイミングが予測できることで、効率的に交尾させることが可能となり、交尾個体から得られた卵から稚ガニまでの生産に成功しました (図 2)。



クリプト藻類が過剰発育個体の胃から7倍量検出された

図1 過剰発育の原因と考えられるクリプト藻類

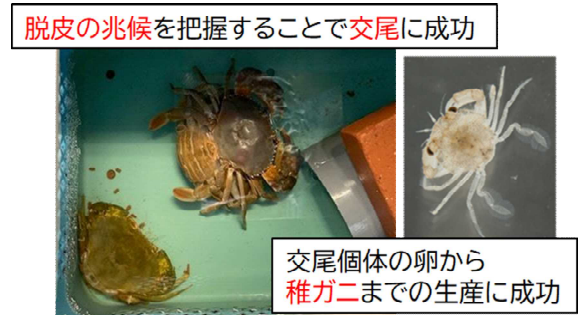


図2 人工環境下での交尾及び稚ガニ生産

## 【期待される成果】

- ・開発した種苗量産技術を静岡県温水利用研究センターへ技術移転し、速やかな現場実装を行うことで、2027 年度以降、安定して 10 万尾以上の放流を実現させます。
- ・確立した養殖技術は、本研究を連携して行う民間企業と共有し、県内に新たな海洋産業として、ノコギリガザミの養殖業を創出します。

## 【今後の計画】

- ・生物餌料の給餌方法や飼育環境などの種苗生産条件の検討を行います。
- ・出荷サイズまで早く成長させるために、給餌方法や養殖環境の適正化を図っていきます。

(作成 2026 年 4 月)